



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2023年12月1日

12月 第262号

奈良・人と自然の会



<椎茸の収穫>



Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>



ビオラ・パンジー500株の植栽	1	月例研修会（近江八幡）・レポ②	8
ならやまプロジェクト	2	山旅回想・ニイタカヤマノボレ	9
Monthly Repo ならやま	3	人と自然	10
里山の今（里山・果樹）	4	Galleryならやま	11
佐保川小学校秋の学習支援・レポ	5	行事案内・奈良学クイズ解答・ひとやすみ	12
芋掘りイベント・レポ	6	幹事会報告・こもれび	13
月例研修会（近江八幡）・レポ①	7		

ビオラ・パンジー500株の植栽

～【「なら四季彩の庭」づくり】実践活動～

宝田 史子

初夏のならやま活動日、山野草園でいつものように草引きをしていると、千載会長から、「ビオラ 250 株、パンジー 250 株、もらえるように申請した。まだ決定ではないけれど、多分大丈夫やと思う」と声を掛けていただきました。

ならやまを四季の花で飾るべく、丹精をこめて草花の手入れをしている、景観グループの花組の力になればとの思いで、【「なら四季彩の庭」づくり】花苗配布事業に申し込み、連絡を待っているとのことでした。

日々、気にかけていただいているのだと思うとうれしく、感謝の気持ちでいっぱいになりながらも、500 株もの苗をどこに植えようかと、思案する日々が始まりました。

景観グループの花組は少人数なので、宿根草の花を多く植えて、出来るだけ作業の手間を省いて花壇の維持管理が出来るように、草花の種類を移行しています。その為、一年草の花を植える場所が少なくなっていました。

ウォーキング、ジョギング、サイクリングなどで訪れる地域の人たちに楽しんでいただけるようにといろいろ考えた結果、サイクリング道路沿いの空き地を花壇にさせていただいて花を植えることにしました。



千日紅を植えていた花壇中央のロウバイを中心にして、ロープで作ったコンパスで半円を線引きし、中西さんの助言もあり、支柱を立てて、ロープを張り、花壇を作りました。

11月3日(金)10時前、好天に恵まれて植栽には最適です。千載会長の先導で苗を載せた軽トラックがならやま第二駐車場に到着しました。苗を運んでくださった運転手さんが、ならやまの風景にすごく感動され、色々尋ねられるのに対して答えながら、活動日の様子なども紹介し毎週木曜日、活動しているのでぜひ見学に来てくださいと勧誘も怠りませんでした。

活動日の翌日にもかかわらず、予想外に総勢10名の方に次々と参加していただき、季節外れの猛暑の中「暑いな—11月やで—！」と言いながらも、和気あいあいと作業が進んで、12



時頃には無事、植栽が終了し素敵な花壇ができあがりました。その結果、道行く人から早速「明るくなったな—ありがとう！」と嬉しい言葉を掛けていただき、みんなが報われた瞬間でも



ありました。

暑い中、慣れない作業をお手伝いしていただいたみなさん、本当にあ

りがとうございました。

みんなで植えたビオラ・パンジーが、どうか鹿に食べられず、綺麗に咲きますようにと願わずにはられません。

ちなみビオラ・パンジー全体の花言葉は「もの思い」、「私を思って」だそうです。



ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて

ならやまの紅葉を楽しむ観察会も終わり、あっという間に短い秋が過ぎて冬が来た。椎茸の榎木作りが始まり、年末に向けて様々な準備が進む。今年はこれまであまりケガする人もなくこのまま無事に終えてほしい。ベースキャンプへの出入り口の溝蓋は足の上がない高齢者にとって気がかりなところだったが、きれいに整備されて安全に通行できるようになった。手作りの木製溝蓋の風情は捨てがたいものがあるが、安全優先で判断された。「明るく、楽しく、無理をせず」。健康と安全には決して無理は禁物だ。



一方、協力しあうことには少しだけ無理してもいいかなと思う。ならやまの活動には隙間を埋めるための様々なものがあり、すべての人が好むものばかりではない。あくまでボランティアであり自分の意に沿わないことはやらなくていいとはいうものの、「仲間への尊敬と感謝」と「力をあわせる」ことは一緒に活動するための基盤である。できないことは仕方ないが、できることなら力をあわせ協力しあう強い集団でありたいと願う。

12月の活動特記事項

12月7日(木)：協働活動(アダプトプログラム)、芋煮会

12月28日(木)：活動納め、年末大掃除、新春準備

12月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	部分皆伐地整備(チップ処理)、薪割り、玉切り、迎春準備(門松など) ユート：アカマツの森でのマツの間伐と整備
エコファーム	芋煮会とその準備、各種野菜の収穫・施肥 畑の整備(里芋跡、南2) 鹿ネット更新、新ハウス設置、肥料小屋/1号倉庫点検
景観	整備：竹林整備、迎春準備、備品点検管理、ミツバチ巣箱整備 ビオ：池・水路の景観保全・整備、迎春準備・備品整理 花：ホタルブクロ・アヤメ草引き、ハナショウガ刈り取り、フジバカマ株分け、フーセンカズラ片付け、備品整理
パトロール	1~3コースパトロール、観察路整備、テント内片付け
果樹	寒肥施肥、銘板制作取り付け、鹿よけフェンス際の防草シート張り 実りの森除草

活動日： 毎週木曜日 9:00~15:00

前日の19時現在の気象庁予報(NHKTV奈良19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌日、翌日も同予報であれば中止



Monthly Repo. **ならやま**

富井 忠雄

10月26日(木) 晴 70名+京大院生1名

小山夫妻が入会。脱穀は雨のため、次週30日に順延し、エコG中心で行う。

里山GはNo.5区画の部分皆伐、芋掘りイベントの準備、椎茸の収穫。エコGは芋掘りイベントの準備、落花生の収穫。景観Gは彩の森の草刈り、真竹林の整備。花班は千日紅の片付けと草引き。ビオ班は蓮池の整備、西池の泥上げなど。パトロールGは観察路2コースのパトロール、京大院生の里山の取材に対応、草刈り。果樹Gは西条柿の収穫、旧鹿除けネットの撤去。

11月2日(木) 晴 75名 +京大院生1名

アダプトプログラムとして、会員全員でならやまフィールドのゴミ拾いをする。京大院生が土壤検査用にならやま各所の土を採取した。

里山GはNo.5区画の部分皆伐、椎茸収穫、薪割り。エコGは芋掘りと跡地の整備、ピーマンなどの収穫、花班の花畑の耕運機かけ。景観Gは彩の森の草刈り、竹林の雑木の伐採整備。花班はパンジー、ビオラの花壇作り。ビオ班はザリガニ駆除、西池北側の湿地の泥上げ、ベンチの設置。パトロールGは観察路3コースのパトロール、丸太階段の補修、ミーティング。果樹Gは旧鹿除けネットの撤去、実りの森除草、植村牧場から牛糞の受け入れ。



11月9日(木) 晴 76名

豚汁の提供について、アンケート実施と黒米の提供について案内。「なら四季彩の庭づくり」によるパンジー、ビオラ500株の植栽が3日に花班はじめ有志によって実施されたことが紹介された。



里山Gは椎茸の収穫、No.5区画の部分皆伐、薪材の玉切り、薪割り。エコGは玉葱の畝作りと移植、ビニールハウスの解体、さつま芋などの収穫。景観Gは真竹林の伐採と整備、ならやま大通り沿いの法面の整備。花班はジャーマンアイリスの草引き。ビオトープ班はベンチの設置、蓮池北側土手の補強工事、BCのグレーチング設置。パトロールGは観察路1コースのパトロール、階段整備、エントランス広場花壇植込み。果樹Gは、BC近くの梅の木剪定など。

11月16日(木) 晴 65名+近大生3名

天気の良い秋晴れて、作業が進んだ。BC出入口の溝蓋はすべてグレーチングによってきれいに整備された。

里山GはNo.5区画の部分皆伐、彩の森の枯死木の玉切り、椎茸の収穫と薪割り。ユートピアクラブはアカマツ林下雑木の部分皆伐整備。エコGはテーブルセットの設置、ハウスの解体、玉葱の移植、赤かぶなどの収穫。景観Gは真竹林伐採整備、ならやま大通り沿いの法面の垣根作りなど。花班はフジバカマの草引きと株分け移植、ジャーマンアイリスの草引き。ビオトープ班は蓮池の土手の補修、ザリガニ駆除、近大生の田貝調査など。パトロールGは観察路2コースのパトロール、エントランス広場、観察路の草刈り、BCの溝蓋の整備、自然教室下見など。果樹Gはゆずの収穫、梅の木剪定、ブルーベリー挿木苗の搬入、鹿除けネット残材処理。

里山グループ



果樹グループ

近況 (今はまっている事)

寺野 金三

さて、最近は里山グループで活動地の整備をしています。

今まではエコグループにて野菜作りの農作業をしていましたが、やはり森林での伐採作業が向いているようで、活動の場を里山グループに変えて活動をしています。里山グループの仲間とも慣れ、楽しく安全に整備活動をしており、いい感じですね。

私のモットーは「無理をせず楽しく安全に」ですので、伐採作業は危険であり、安全な作業には気を付けています。最近雑木林のコナラ木だけを残し、皆伐作業にチェーンソーを使っています。伐採後にコナラの木だけを残し、落葉する頃にホダギを取るための作業が計画されています。奈良・人と自然の会に入り週1回の活動はとても私にとっては魅力的で楽しいですよ。

さてもう一つはまっているものがあります。これも1昨年頃からですが、そば打ちです。月一回のそば打ちクラブに参加しており、初めの頃はとんでもない麺が出来ていましたが、最近少し慣れたのでしょう、加水加減そしてこねの感じが少しずつ良くなったかなあと感じています。さらに難しいのは延し。厚さ・厚さのバランス。均等な正方形になっていない山が2つも3つも出来る、たいへん変形した正方形をしていたものも出来ます。さらにだめなのは切です。細い・太い麺が出来るとしげない感じもあり、本当にそば打ちの奥深さを知りました。

道具等を借りて、我が家で月に1回から2回打つ努力をしています。そのためか麺が冷蔵庫に常に10束以上眠っています。今は1日に1回はそばを食べて消化しているのが、



近況報告です。

「Where did Matsutake go?」

増田 典男

緑の少ない大阪から奈良に来るとおいしい空気にほっとします。まぼろしの松茸にあこがれてユートピアに参加しましたが一度消え去った松茸を収穫するには最低5年かかるそうです。アカマツ林をしっかり管理したら奇跡的に採れるかも「夢」求めて月一回のアカマツ林の管理、残りは果樹Gで活動しています。

京都の古老は「京都の里山は昔と大違い、山の色がまったく変わった」と言います。林は手つかずの原始林、木を植えた人工林、そして人の手が入る里山に分けられます。子供の頃はどこの家にも竈(かまど)があつて煙突がありました。燃料は薪で里山の木が材料で人の出入りがありました。石油・電気と変わり里山に人が入らなくなって荒れ放題になりました。全国の里山林の面積の約60%はアカマツ林とコナラ林ですがマツノザイセンチュウ病(松枯れ病)で全国各地のアカマツ林は白骨化し、里山の風景が変わってしまいました。もちろん松茸は激減しました。明治以降治山治水工事のお陰でハゲ山にアカマツ林が増加し松茸もたくさん採れました。1900年代は約3000トン、史上最高は1941年1万2222トンも採れて食卓に溢れました。戦後アカマツはパルプ材として伐採され、ゴルフ場、住宅地開発と松枯病で2000年代には85トンまで下がり幻の松茸となりました。温暖化も問題となり主産地が兵庫・京都など西日本から長野県に移りました。

子供の頃の奈良は川もきれい、空気もきれい、夜は満天の星空でした。害虫が減り、夏の蝉もアブラゼミからクマゼミに変わりました。縄文時代の西日本のでんぷん源はクリ・ドングリだったそうです。そんな昔のままの自然がいったいの奈良の里山を大事にしたいですね。

佐保川小学校秋の学習支援・レポ

小島 武雄

2023年10月24日、早朝は冷え込みましたが、9時頃には秋の爽やかな空の下、4年生2クラスの児童36名が校庭に集まりました。春と夏の自然工作に続いて3回目です。自然教室のメンバー7名が参加しました。



< 樹木に番号付けなど準備 >

工作はじめに、児童に、「この前の自然は何をしたか覚えていますか？」の問いに、「ドングリでクマのペンダント」と元気よく答えてくれました。

「他には？」

「なんか葉っぱに書いたよ」

「木の鉛筆」との声、ちゃんと覚えてくれます。

実は桜木さんが、この観察日に配達されるように、タラヨウのハガキを投函してくれていました。

この葉っぱが届くんだよ。

みんな見たでしょ。本当でしょ。



< 樺の樹姿をみる >

今日の学習は、春に見た若い柔らかな葉っぱや、咲いていた花がどうなったか観察していきます。

残念ながら、観察に予定していた桐の木が隣地への越境のため、全て伐採されていました。幸い残っていた丸太で、芯の空洞を見る事ができます。細かく輪切りにした丸太を紐で束ねたのを、持ったり、振ったりして軽さを感じました。



桐の中に穴があるのは、自然教室のメンバーも知りませんでした。

< 切られた桐の木をわざりにしたもの(芯の空洞) >

クスノキの葉っぱの匂いに、「なんか知ってるような」と首を傾げる子。校庭のフェンス上の方を見上げると、おいしそうなアケビの大きな実がなっていました。

「食べたーい」の声。

コナラ、アラカシ、クヌギの話聞いて、足元のドングリや殻斗を拾い集める子。

イロハモミジ、ハナミズキ、サクラの紅葉の周りに集まり、色んなお話を聞きます。

鮮やかなイチョウの黄色の前で、ギンナンの実の匂いに思わず顔を背ける子など、様々に楽しみました。45分の授業時間では、とても足りません。



< イチョウの黄葉の前でお話 >

最後に、次は来年1月の冬、寒いけどまた自然観察やりますよ。楽しみに待っててね！いつもの元気いっぱいの挨拶で、終了。

芋掘りイベント・レポ

“やまびこ言葉”のお礼

飯島 八重子

10月28日快晴に恵まれた土曜日「芋掘りイベント」が開催されました。今回は佐保台小学校から児童21名、未就学児や保護者学習アドバイザーを含め58名、ならやまの会員家族10名、イベントスタッフ26名を含めると総勢94名の参加となりました。

予定通り千載会長の挨拶から始まり、富江さんや三瀬さんから収穫方法や注意点等の話があり、終わると班ごとに並んで芋畑へ、それぞれの場所で早速大きな歓声が沸き起ります。



芋ズルを取り除きスコップで芋を掘りやすい状態にするとあちこちから「うわあ〜! 大きいわ〜! いっぱいひっついてる〜!」など大声が畑一面に響き渡ります。参加者にインタビューしますと「楽しい〜!」「結構でかいのが掘れました〜!」「昨年も参加しました〜♪」等々。

10時40分過ぎそろそろ終了時間、未練たっぷり芋畑を後に…。ベースキャンプに戻るとあったか焼き芋がお待ちかね。フーフーほおばり、ひと息つくとも度はいよいよ「お芋コンテスト」。



各班それぞれ自慢の重さや形のお披露目です。重さでは1.12kg、形では「立派なひげのモグラ」とネーミングされたお芋が1番に。それ以外でも各班の皆さん頑張りました。ご褒美のストラップをゲットして皆さんにこにこ顔に。

終了時の最後の挨拶では学習アドバイザーの三谷さんと参加者の皆さんとで“やまびこ言

葉”によるお礼です。せっかくなので、ならやまにこだました“やまびこ言葉”を一部ご紹介します。

(三谷さん)「お〜い!」

(参加者)「お〜い♪」

(三)「ヤッホー!」

(参)「ヤッホー♪」

(三)「もっとでかい声で一!!」

(参)「ヤッホ〜お♪♪」

※皆さんとても大きな声になりました。

(三)「今日は〜あ〜! おいしい焼き芋食べて〜え!」

(参)「今日は〜あ〜♪ おいしい焼き芋食べて〜え♪」

※以下“やまびこ言葉”が響き合います。

(三)「うれしかった!」

(参)「うれしかった♪」

(三)「この日のために〜! 夜も寝ないで昼寝して〜!」

(参)「…夜も寝ないで昼寝して〜え♪」

(三)「準備をしていただいた『人と自然の会』の皆さんへ〜! お礼を言いましょ〜っ!」

(参)「…お礼を言いましょ〜っ♪♪」

(三)「ありがとうございました〜っ!!」

(参)「ありがとうございました〜っ♪♪」

(三)「さっそく家に帰って〜! 芋を寝かして〜!

2週間後に食べてみたいと思います〜〜!」

(参)「さっそく家に帰って〜♪ 芋を寝かして〜♪

2週間後に食べてみたいと思います〜〜♪♪」

(三)「本当にありがとうございました〜あ!」

(参)「本当にありがとうございました〜あ♪♪」

という具合でした。



れたようでした。

熱と心のこもった“やまびこ言葉”で、エコグループの皆さんやイベントお手伝いの皆さんの労も報わ

れたようでした。“やまびこ言葉”でのお礼の後、収穫されたお芋をお土産に11時30分、事故無く皆さん笑顔での解散となりました。

月例研修会 11月6-7日

東近江、安土・近江八幡を訪ねて

千載 輝重

毎年一度のお楽しみ一泊旅行。今回は、一日目は近江周辺の聖徳太子ゆかりの諸寺探訪、二日目は織田信長が夢に描いた天下統一の象徴でもある壮大な安土城を訪ねたのち、近江八幡市周辺散策・水郷巡り、宿泊は休暇村にて近江牛食べ放題、というまことに盛りだくさんのお楽しみ旅行である。6日8:30、参加者23名を乗せたデラックスバスは一路東近江の百済寺へ。

天台宗の湖東三山(金剛輪寺、西明寺、百済寺)の一つで、聖徳太子が百済の龍雲寺にならって建立したとか。



本尊は太子が立ち木のまま彫ったという一木造りの十一面観音で高さは2.5mほどもあるらしいが秘仏となっていて見る事ができない。お前立ち観音に手を合わせる。境内は山城の趣を残し、庭園は「天下遠望の名園」ということで、琵琶湖から比叡山はもちろんのこと、880km先には百済国が(意外と近い)。少し早い紅葉に未練を残しながら道の駅で軽く昼食。次の太郎坊宮へ。

バスの中から岩山の中腹に社殿が見える。阿賀神社が正式名で山に棲む天狗の名にちなんで太郎坊と呼ばれている。聖徳太子が崇め、祭神は天照大神の第一皇子で名前が正哉吾勝勝速日天忍穂耳大神「まさに勝った、私は勝った。朝日が昇るように鮮やかに、速やかに勝利を得た」ということから勝負の神とされている。大岩が多く中でも夫婦岩は壮大で善人だけが二つの岩の間(80cm)を通り抜



けることができる。幸い参加者には悪人はいなかったことにほっとして次の互屋禅寺へ。

聖徳太子が四天王寺建立のため、山中の霊土を使って互を作るために建てたといわれる。苔むした庭は紅葉との調和が素晴らしい。本尊の十一面千手千眼観音は聖徳太子が一刀彫したとされる秘仏でこの日は50年ぶりに特別開帳されており、次に見られるのは33年後とか。唇に朱が残っており何となく可愛く優しげである。小雨がぱらつきだす中、本日最後の教林防へ。

聖徳太子が林の中で教えを説かれたことが名の由来で、本尊は太子自作の石仏。紅葉の季節のみの公開である。紅葉はまだ少し早いもののさすがに手入れされた庭園は見事で、その一部を切り取るように作られた座敷の格子窓は四季の掛け軸として十分に通用する。木々にかけてられた札に普段何気なくよく使う日本語が。意外と仏教とつながっている。仏頂面って???



雨も降ってきたし、早めに休暇村へ。温泉につかってゆっくりした後、17:30、お目当ての近江牛食べ放題バイキングの開始。すき焼き、しゃぶしゃぶ、ステーキ、やわらかで味わいのある近江牛、そのほかおいしい料理を堪能。満足度200%。食後の2次会では腹10分目を超えていたためにアルコール類は半分未消化であったが、よもやま話で盛り上がった。

翌朝、昨夜の雨もあがり好天。8:30出発。今日は、午前中は①安土城跡組と②信長の館組、午後は③近江八幡市内散策組と④水郷巡り組に分かれて楽しんだ後、ラ・コリーナ経由で帰路に。帰りのバスでは恒例の小島クイズで盛り上がり、予定通り17:00近鉄奈良駅前に到着。

参加者の皆さん、おかげさまで大変楽しい二日間になりました。ありがとうございました。



① 安土城跡

高間 祥子

幾重にも重なった見事な石垣を見上げながら、ガイドの中西さんの説明を受け、石段を上り始める。平成の発掘で見つかったという石段の中には道祖神や石仏が刻まれたものもある。長い年月、土に埋もれていたことが伺える。秀吉はじめ家来たちの館跡が点在する、長い長い階段を上りきり、令和の発掘作業の様子を見ながら天主跡に到着。たった3年で焼けてしまった五層七階の天主閣がそびえ立つ姿を想像する。

前日の雨で滑りやすい自然石の階段をスイスイ下られるガイドさんが79才とお聞きしてびっくり。飛鳥マラソンを走ったことがおありとか、奈良の話にも花が咲く。丁寧で面白い説明をいただき、信長の威光や本能寺の変後の緊迫した様子に思いを馳せることができた。

② 安土城天主信長の館

羽尻 嵩

今回の旅行は、聖徳太子の東近江の足跡を巡り、グルメも堪能し、懇親も深められ、すべてが楽しいものでしたが、旅の終わりに「安土城天主信長の館」見学の感想を依頼され、憂鬱。

この館は、スペイン万博の日本館に出展された安土城の天主閣6層に加えて5層も復元させたものです。5層の襖絵には、釈迦の説法図の他に「心の平穩」を説く孔子や老子などの聖人が描かれ、柱には龍の彫刻が刻まれていました。

信長といえば、冷酷非情のイメージなので、心の平安を説く聖人の絵には違和感があり、帰宅してからも疑問が残り、考え続けました。

結論・・・信長の目指したのは、争いのない平和な世の中の建設であった。



その襖絵が信長の本心を示すものであり、信長は理想を実現するために「龍」になったのだ。

彼の生立ちと経歴からすれば納得でしょ？

③ 近江兄弟社について

杉本 登

近江八幡市の街歩きでヴォーリス記念館に行きました。米国人ウィリアム・メレル・ヴォーリスはキリスト教の伝道士であり、建築家、メンソレータムの事業家としても有名です。私はメンソレと近江兄弟社の名前は知っていましたが、そのいわれは知りませんでした。記念館で説明を聞き、ヴォーリスが愛した近江の地名とキリスト教の博愛精神で目的に向かって心を一つにする仲間という意味で近江兄弟社と名付けたそうです。ヴォーリスは子爵令嬢一柳満喜子（ひとつやなぎまきこ）と結婚し、後には日本に帰化して一柳米来留（メレル）と改名しました。米国から来て留まるとはいかにも日本を深く愛したヴォーリスらしい命名ですね。多くの建築作品や学校、病院を建て社会福祉にも貢献した彼は近江八幡市名誉市民として今も人々に深く愛されています。

④ 水郷巡り

池田 富子

健脚組の安土城見学には参加できず水郷巡り！！ 乗船した船の船頭さんは水郷巡り一番の古参、ラッキー！！ 船頭さん唄うたって！とせがむも唄はお客様が歌うんだよと軽くなされた。ゆるりとした川の流れを“ひねもすのたりのたりと”川岸の葦も少なく遠景の山々の紅葉もまだの様。それではと持ち込んだビールと弁当で昼食タイム。嬉しいなー、道の駅の弁当作り立て、おいしそうだったので2つも買って完食。昨夜の近江牛食べ放題で2kg位体重増えてるのになぁー、舟沈むでー？ すれ違った他のグループと挨拶かわし、楽しい水郷巡りでした。毎週ならやま花組で草引き婆さんしてるのも楽しいが、旅行も楽しい。お世話役の皆さんお疲れさまでした感謝感謝です。



山旅回想 ニイタカヤマノボレ
「玉山(新高山 3952m)と原住民族」
(中華民国台湾)

中井 弘

1894年に勃発した日清戦争で勝利した日本は、翌年下関条約で台湾の割譲を受け1895～1945年の50年間、日本にとって初めての植民地統治を行うこととなった。

台湾島の中央部に北回帰線が走り、北部が亜熱帯、玉山のある南部は熱帯に属している。地形は玉山山脈、雪山山脈、中央山脈など5つの山脈で形成され、玉山山脈には台湾の最高峰・玉山(3952m)が聳えており、富士山(3776m)より176m高い。

清朝の時代「白色玉の如く 遠くに望むれば太白(李白・太白山)に積雪するが如し」と詠んだのが「玉山」と呼ばれる起源とされる。日本統治時代、明治天皇が日本の最高峰・富士山より高い山という意味で「新高山」と命名し、「ニイタカヤマノボレ 1208」の暗号電報が真珠湾攻撃の命令になったことは有名である。

1983～88年台北支店に在任中、台湾の岳人が目標とする九岳「五岳三尖一奇」を完登した。「五岳」とは：玉山(3952)・雪山(3884)・秀姑巒山(3860)・南湖大山(3740)・北大武山(3090)。「三尖」とは中央尖山(3703)・大霸尖山(3505)・達芬尖山(3222)。「一奇」が奇萊主山(3605)。の九岳である。

台北市近郊の低山も「日本人会」会員を案内してほとんど踏破した。帰国後登山記録を一冊に纏めたところ、このことが台湾の岳友を通じて「民生報新聞」に伝わり紙面に掲載された。

私が所属していた奈良岳志会を案内して玉山と二番目の雪山に登っている。当時3km以上の特別管制区入山には、警察の甲種入山許可書とガイドの同行が必要であった。

さて、1998年8月いよいよ岳志会にとって初めての海外遠征隊による玉山登山開始である。

登山口からは長い登りが続くが、熱帯であることから森林限界は日本よりかなり高度になる。3528mの石造りの排雲山荘に到着。素泊まり専用であり清潔だ。登山ガイドの頼さんやボッカの全さんが夕食の準備中、暮れ行く時間を久しぶりの山仲間と楽しく語り合った。

到着時、小屋前のシラビソの木に仕掛けられた罠に、黒曜石のような可愛い目をしたムササビが掛かっていた。それが皮を剥がれ炒め物で出てきたが皆びっくりしながら箸が出る。



翌朝未明、小屋裏から瓦礫帯のジグザグのきつい坂を登る。頂上直下の大絶壁

下部を回り込み、コルから岩稜を直登して玉山頂上に登り立った。遙か遠くには雪山をはじめ、かつて登頂した膨大な山塊が望み見える。

北峰を經由して、玉山山脈を横断する八通関古道(清朝時代の建設)を目指し、ひたすら下る。皆疲れ果てて林務局観高小屋に崩れ落ちた。

いよいよ最終日だ。まだ暗い中、長大な尾根をひたすら下る。飛瀑となって落下する雲龍瀑布を横切り、日本時代にノミで作ったとされる断崖絶壁の道を更に下り、麓の東浦温泉に降り立った。

温泉はすべて小さな個室だ。さっぱりした後の宴会では、ボッカ(歩荷)を務めた地元の全さんの岳父(日本姓・竹下勝美)夫妻や近隣の人たちを招待した。皆日本語ができる。日本時代、異なる部族間の共通語として日本語が用いられた。台湾政府が認定した原住民族は16種族、人口の2%を占める。全さんは5番目に多いブヌン族(布農族。人口5万人)今でも日本語をよく使うそうだ。日本の昔懐かしい歌と一緒に合唱した時の気持ちは感慨深くも複雑であった。迎いのバスに乗り込んで一路台北に向かった。

人と自然

ノヴァク ヤロスワフ

6月のならやまプロジェクトに参加した際、森で過ごした数時間後、深い充実感を体験しました。その後猛暑が続き、夏バテ気味の私は、参加を止めざるを得ませんでした。しかし森での良い思い出が、私を元気づけ喜びで満たされることに気づきました。

9月末に完璧な天気を訪れ、まるでポーランドの夏のような感じでした。森の活動に再び参加すると、驚くほど喜びで満たされました。暑さも和らぎ、蚊も少なくなり、リラックスして楽しい時間になりました。自然に身を委ねるとエネルギーが蘇ります。

一人で散歩するより同じ興味を持つ人々と自然の中で活動することとは違うのかもしれませんが、共有された経験と自然とのつながりは、総合的な楽しみを高めるのでしょうか。

これが私にとっての森の活動中の幸福の唯一の要因なのか、という疑問がわきました。この疑問を抱えながら、私は名札を見ました。「人と自然の会」と書かれていました。私は「人」と読んで、私の考えに対する答えがすぐにわかりました。そうです、それは自然だけでなく、人々も重要なのです。バッジに「人」の言葉が最初に置かれていることから、人々の要因の重要性を示しているのかもしれません。



この熟考は、人々との交流の重要性を実感させられました。私が新しい人生の章、早期退職とともに日本への帰国、私にとって未知の街に移り住むことになる中、私は人々との交流を懐かしく感じ始めました。これは私が勤務中には

当然のこととしていた現象で、職場の悪い関係からくる疲労が特定の個人を避けることにつながるがよくありました。それでも、困難の中で、特にチーム協力において、喜びと満足の瞬間がありました。同僚や友人と調和して働くことが、その時に温かい気持ちを生み出しました。

会の活動では、再び協力とチームワークを経験することができました。会の日本の人々からの親切に感謝しています。これは私をそこでとても良く感じさせる要因です。

ただし、「ならやまプロジェクト」は私たちの「自給自足」の夢への旅路の一環のようです。



近々、私たちは「福知山」に引っ越す予定で、そこで自然に暮らし、果物や野菜を栽培する夢を実現するために適した庭のある家を見つけました。私たちにとって唯一の未知の要素は、村の人々との交流です。奈良で学んだ貴重な教訓を活かし、どんな困難も乗り越えられることを願っています。「ならやまプロジェクト」を訪れて人々との良い思い出を新たに作る旅に出ることにしようと思います。





Gallery ならやま



スケッチ シマフクロウ 戸田 博子



竹細工 寿老人 鈴木 末一



陶芸 ネコ 小島 武雄



陶芸 香立て 桜木 晴代

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

行事案内



新春初出式のご案内

※ 餅つきと七草粥

※ 10年継続会員記念植樹式

福田 美伸

日時：1月11日(木) 9時～

場所：ならやまベースキャンプ

＊餅つき（午前9時過ぎから準備）

少し遅れた初出式、餅をついてお祝いします。餅つきをする臼(うす)と杵(きね)の形はそれぞれ女性と男性を表し、子孫繁栄、家の繁栄の象徴とされてきました。大変めでたい行事であります。頑張ってください。

因みに、食べ方は各地方色々ですが、関東では納豆餅が一般的です。

また、ならやまで採れた春の七草を使って七草粥を作ります。春の香りを楽しんで下さい。



＊植樹（午後1時過ぎから）



10年継続者今年度13名です。ヤマボウシを植樹します。秋には紅葉し赤い実がなります。JRのトンネルを抜けてすぐの所に植える予定です。ヤマボウシが立派に育つよう令和5年度の記念樹として植えましょう。



ひとやすみ



JR 奈良線の線路の下を潜って、ならやまに入るときれいな里山の風景が目飛び込んでくる。昔は竹藪だらけ、草だらけだったが、みんなが一生懸命、草を刈り、努力したから今の景色になった。「よく頑張った」という声を聞く。

あれ、「がんばる(頑張る)」はどういう意味だっけ。「どこまでも耐え忍んで努力する」ということだと思っていたが、本来は仏教で戒めている「我を張る」からきた言葉らしい。

お釈迦様は「我として認められるものは何もない」として「無我」を説かれ、自分のエゴを押し通すことがないようにと教えられたとのこと。

ならやまでの活動は自然、多様な生き物との共生の場を実現すること、景観、自然を保護することも目的の一つです。人間が我を張ると、周りが見えなくなって、気がついたらならやまが人間のためだけの場所、環境になってしまっているかも知れません。

頑張るという一見前向きな意気込みの中にも、自我を張りすぎて、周りが見えなくなって独りよがりの空回りにならないように、見つめ直してみることも大切ですね。



2023-11月号奈良学クイズ回答

問1

- ② 五條市 ゴーカスター ③ 東吉野村 ひよしちゃん

問2

- ① 元興寺
 ② 元興寺極楽堂(極楽坊本堂)
 元興寺禅室(極楽坊禅室・春日影向堂)
 五重小塔
 ③ 法興(飛鳥) 蘇我

2023年11月度 幹事会報告

開催日：10月31日



「今年を振り返って」という話題が、出るような時期となりました。

I. はじめに
 ・朝日親と子の自然環境教室・芋掘りイベント
 振り返り（感想・反省・意見等）

II. 会計・総務部より
 ・会員動向：入会2名 退会4名
 146名（家族15名）

・会計：収支報告あり
 III. 活動・行事関係
 ・12/7 芋煮会、蕎麦クラブ（蕎麦打ち披露）
 ・1/11 初出式（餅つき・お握り）10年継続会員植樹式13名該当（ヤマボウシ予定）
 ・1/27 新春交流会

*ならやまプロジェクト関係
 ・水洗い場の改修
 ・チェーンソーは里山Gが一元管理する
 ・豚汁の提供についてアンケート実施を承認
 アンケート結果を踏まえ次回幹事会で協議
 ・なら四季彩の庭づくり実践活動推進事業として奈良県から花苗500株

11/3 受取り 12/20 までに植栽のうえ報告

IV. 企画、助成金事業案件

・順調に事業進捗中

V 特定議題

・B C の溝蓋補修 グレーチング材による補修の検討を進める
 ・新春交流会は、各Gの年間活動計画の説明と意見交換を中心としたものとする
 新春講演会は実施しない
 ・年間活動基本計画取りまとめ中

VI. 広報関係

・ネイチャーなら 12月号編成内容説明

VII. 報告・連絡事項、その他

・月例研修会 11/6-7 近江八幡一泊研修旅行
 ・自然教室 11/23 ならやま秋の自然観察会
 佐保川小学校学習支援 1月予定

以上

私は、電子辞書に収録されている吉川英治『三国志』を読破しました。文庫本8冊相当の大作です。本棚を整理している時に、約30年前に子どもに購入した『集英社版・学習漫画中国の歴史3（三国志の英雄たち）』を見つけたのが、挑戦のきっかけです。登場人物が魅力的で、次から次へとさまざまな策略が出てきて興味深く読みました。

吉川英治の本は、かなり長編ですが大衆向け歴史小説で面白く読むことができました。内容は、二世紀の終わり頃から三世紀の終わりまでの期間に、天下統一のため蜀・魏・呉の3つの国が繰り広げる戦いと人間模様です。一番苦労したのは、登場人物の多さです。読みながら人名をノートに書き、頭の中を整理しました。正に読書です。1日2時間以内に行っていたため、読破するのに1月中旬から約3か月を要しました。来年は、海外文学の長編に挑戦するつもりです。

1月ならやま活動&行事予告

*ならやま活動
 1/11 初出式・10年継続会員植樹式
 1/27（土）新春交流会

会員動向
 <退会者> 10/22 萱野 勉さま ご逝去

発行：奈良・人と自然の会
 URL：http://www.naranature.com
 編集代表 Mail: editor@naranature.com
 編集委員：青木（幸）・青木（芳）・尾崎
 千載・田中（善）・戸田・豊田

表紙写真：夏を2回越した榎木栽培のシイタケが、今年は豊作です。